

# 特性に用いる記号及び定義

[JIS B0021—1998: 抜粋]

種類	特性	記号	公差域の定義	図示例と解説
形状公差	真直度公差	—	公差値の前に記号φを付記すると、公差域は直径tの円筒によって規制される。	公差を適用する円筒の実際の(再現した)軸線は、直径0.08の円筒公差域の中になければならない。
	平面度公差	▭	公差域は距離tだけ離れた平行二平面によって規制される。	実際の(再現した)表面は、0.08だけ離れた平行二平面の間になければならない。
	真円度公差	○	対象とする横断面において、公差域は同軸の二つの円によって規制される。	円筒及び円すい表面の任意の横断面において、実際の(再現した)半径方向の線は半径距離で0.03だけ離れた共通平面上の同軸の二つの円の間になければならない。
	円筒度公差	∅	公差域は、距離tだけ離れた同軸の二つの円筒によって規制される。	実際の(再現した)円筒表面は、半径距離で0.1だけ離れた同軸の二つの円筒の間になければならない。
	線の輪郭度公差	⌒	公差域は、直径tの各円の二つの包絡線によって規制され、それらの円の中心は理論的に正確な幾何学形状をもつ線上に位置する。	指示された方向における投影面に平行な各断面において、実際の(再現した)輪郭線は直径0.04のそしてそれらの円の中心は理想的な幾何形状をもつ線上に位置する円の二つの包絡線の間になければならない。
	面の輪郭度公差	⌒	公差域は、直径tの各球の二つの包絡線によって規制され、それらの球の中心は理論的に正確な幾何学形状をもつ線上に位置する。	実際の(再現した)表面は、直径0.02の、それらの球の中心が理論的に正確な幾何形状をもつ表面上に位置する各球の二つの包絡線の間になければならない。
	平行度公差	//	公差域は、距離tだけ離れた平行二平面によって規制される。それらの平面は、データムに平行で、指示された方向にある。	実際の(再現した)軸線は、0.1だけ離れ、データム軸直線Aに平行で、指示された方向にある平行二平面の間になければならない。

種類	特性	記号	公差域の定義	図示例と解説	
姿勢公差	直角度公差	⊥	公差値の前に記号φが付記されると、公差域はデータムに直角な直径tの円筒によって規制される。	円筒の実際の(再現した)軸線は、データム平面Aに直角な直径0.1の円筒公差域の中になければならない。	
	傾斜度公差	∠	公差域は、距離tだけ離れ、データムに対して指定された角度で傾いた平行二平面によって規制される。	実際の(再現した)軸線は、互いに直角なデータムA及びデータムBに直角で、データム平面Aに対して理論的に正確に60°傾き、0.08だけ離れた平行二平面の間になければならない。	
位置公差	位置度公差	⊕	公差値に記号Sφが付いた場合には、その公差域は直径tの球によって規制される。球形公差域の中心は、データムA、B及びCに関して理論的に正確な寸法によって位置付けられる。	球の実際の(再現した)中心は、直径0.3の球形公差域の中になければならない。その球の中心は、データム平面A、B及びCに関して理論的に正確な位置に一致しなければならぬ。	
	同軸度公差 又は 同心度公差	◎	公差値に記号φが付いた場合には、公差域は直径tの円筒によって規制される。円筒公差域の軸線は、データムに一致する。	内側の円筒の実際の(再現した)軸線は共通データム軸直線A-Bに同軸の直径0.08の円筒公差域の中になければならない。	
	対称度	≡	公差域は、tだけ離れ、データムに関して中心平面对称な平行二平面によって規制される。	実際の(再現した)中心平面は、データム中心平面Aに対称な0.08だけ離れた平行二平面の間になければならない。	
	円周振れ公差	↗	公差域は、半径tだけ離れ、データム軸直線に一致する同軸の二つの円の軸線に直角な任意の横断面内に規制される。	回転方向の実際の(再現した)円周振れは、データム軸直線Aのまわりを、そしてデータム平面Bに同時に接触させて回転する間に任意の横断面において0.1以下でなければならない。	
振れ公差	↗	全振れ公差	↗	公差域は、tだけ離れ、その軸線はデータムに一致した二つの同軸円筒によって規制される。	実際の(再現した)表面は、0.1の半径の差で、その軸線が共通データム軸直線A-Bに一致する同軸の二つの円筒の間になければならない。